

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.61】H21(2009).2.23
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

今金町教育研究会全体集会で教育委員長が要請
～確かな学力の育成のために～

去る、２月６日（金）今金小学校を会場に開催された本町の教職員研究団体である「今金町教育研究会」の一斉サークル（教職員が一堂に会しての研修）の全体集会において橘教育委員長から、教職員に対して教員委員会や教職員、保護者、地域が一体となり子ども達の「確かな学力の育成と向上」について次の要請がありました。



（全文掲載）

日頃の教育活動及び校長先生を中心に各学校において特色ある学校経営を頂き心から感謝と敬意を表する次第であります。

皆さんご承知のとおり、本町は「町づくりは人づくり」との教育理念を基に、「今金町の子ども達は今金町民の手で育んでいく」との共通理念を掲げ教育関係者が一体となり主要な施策に取り組んでおります。

教育委員会は、自らの改革の視点から、教育委員の意識改革や事務局職員の意識改革にも取り組み、本年度は、全国に先駆けて教育委員会の事務事業や施策の外部評価をいただくための「今金町教育委員会外部評価委員会」を設置し、本年４月からは、２名の一般公募委員も含め５名の委員の皆さんに年２回評価・点検を頂き、議会への報告の後、町民へ公表してまいります。



さて、本年度は、子ども達の健やかな成長を願い、各学校にも絶大なる協力を頂き、「今金町学校給食食育推進・地産地消プロジェクト」や子ども読書活動の推進、読み聞かせ等の推進にも取り組んでまいりましたが、保護者の皆様の共通の願いは「確かな学力の育成と向上」という不変の命題があります。

近年は、学校現場はもとより児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする取り組みが求められています。

教育委員会としても学校教育に依存するだけではなく、子ども達の日常生活における様々な活動がよりよいものとなり、学校、家庭、地域がそれぞれの機能を十分に発揮し、一体となった教育が一層推進されることが必要なことから、地域の教育力を学習に生かす手立てについて検討してまいりますので、どうぞ、先生方におかれましても共に、子ども達のためにお力添えを賜りますよう教育委員会を代表し心からお願い申し上げます。

今金町確かな学力向上のための検討委員会開催

校長会・教頭会・教育委員会の三者が２月２０日（金）昨年４月２２日に実施された全国学力・学習状況調査の調査分析結果とその対応策として各学校で作成した学校改善支援プランを活用し、学校・家庭・地域・教育委員会等が、それぞれの立場において本町の児童生徒の確かな学力の育成と向上のため必要な諸施策を見出すための検討委員会が開催されました。



はじめに、教育委員会から全国調査の結果概要及び今金町の調査結果の分析報告があり、その後、各学校の改善プランが教頭会より報告され、それらを受けて校長会からは今金町全体としての教育のあり方、町教育研究会としての取り組みについて説明をいただきました。

また、協議・意見交換ではそれぞれの役割の確認がされ、家庭教育においては、学力の向上のための基本となる規則正しい生活（早寝、早起き、朝ご飯運動）や家庭学習、読書活動の推進、また、地域においてはあいさつ運動、健全育成活動、地域行事等を通じ町全体で子ども達の成長を支えるための活動や環境づくりを推進していくことが確認され、これらの趣旨や取り組みを理解していた



だくためのパンフレットを作成し、保護者や地域の皆さんへ配布するなど具体的な施策についても推進することとなりました。

特別支援教育コーディネーター等合同研修会を開催

去る、１月２７日（火）今金小学校を会場に函館
養護学校の宮岸尚平氏（地域支援部特別支援教育コーディネーター）と片岡道彦氏（療育部自立活動教諭、理学療法士）の両氏を招き特別支援教育についての研修会が開催されました。

研修の主テーマは、肢体不自由の児童生徒に対する特別支援教育について、理論と指導の実際について貴重な講義をいただきました。



今回は、今金小学校の校内研修と併せて開催することで関係者の配慮をいただき、町内の各学校のコーディネーターはもとより、今金町国保病院（看護師長）、保健福祉課（保健師）、今金保育所長、今金幼稚園長、特別支援教育支援員の参加もいただきました。今後も、資質の向上と実践のための研修機会の充実に努めてまいります。

委員寄稿「歳時記」



今月は、橘教育委員長です。

『がん封じ寺のお守り』

大人気のがん封じ寺は現代のお伊勢参り（ネット検索）。愛知県蒲郡市にある無量寺は、平安時代に建立されて以来、病封じの不動明王として信仰されてきた寺である。



松山住職に、がん封じの由来を尋ねた。それは２０年前のことだという。

「地元の中年女性が胃がんを宣告されたんだわ、でね、手術の前にお参りしたんだね」この女性が手術直前の検査に付いたところ、がんの病巣が薄くなっていたという。さらに一ヶ月、経過を見たら、「ガンがすっかり消えていたっていうんだ」お礼参りに訪れたこの女性が、近所の人々に無量寺のご利益を話したらしい。

うわさを聞きつけた新聞社が記事にし、週刊誌が取り上げ、一年もたたずにマスコミを通じて、全国に広まった。今は、年間１００万人ほどの人々がお参りに来るそうだ。

昨年七月の大学の同期会に集まった中に、その年の一月にガンの手術をしたものがいた。「お前たちがガンにならいように」と参加１０名の者たちに、この寺のお守りを持って来てくれた。手渡された瞬間、思わず口から出た言葉は「仲間になれって言うのか？」だった。



手にして三日後、体調の異常を感じ、人生初めての点滴を受けその月に同じようなことが二回あった。初めてのドック検診を受けた。

結果は、早期がんの告知であり、緑内障・大腸の検査も必要とあった。

一回目の病理検査でステージⅢ「ガン」、二回目はⅡ～Ⅲ「ガン」と疑ったほうが妥当という。二年前に保険が適用されたばかりの内視鏡での手術を受けた。摘出したものの病理検査の結果「ガン細胞は見当たらない良性腫瘍である」という。判った直後に医者はこういった「よかったね～、胃を取らなくて」、もう一人に聞いた、「外科で手術していたら３分の２は取っていた」という。

ガン告知が９月の末、ガンではなかったと言われたのが１１月のはじめ、なにやら、無量寺が有名になったきっかけの中年女性の胃がん話と似ているような気がする。緑内障症状は見られない・大腸ポリープの摘出で終了。

「痛み止めの薬をくれ」という患者にカプセルの中身に砂糖を入れたものを服用させると効くことがあるという。これは本当の話という。要は「病は気から」「気は病を退ける」といわれることに結びつくのか。

俺はツイテいたと感じるとともに、病封じ・ガン封じのお守りはムゲに扱えないとの思いがする。